

41:1 それから二年後、ファラオは夢を見た。見ると、彼はナイル川のほとりに立っていた。41:2 すると、ナイル川から、つやつやした、肉づきの良い雌牛が七頭、上がって来て、葦の中で草をはんだ。

41:3 するとまた、その後を追って、醜く痩せ細った別の雌牛が七頭、ナイル川から上がって来て、その川岸にいた雌牛のそばに立った。41:4 そして、醜く痩せ細った雌牛が、つやつやした、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。そのとき、ファラオは目が覚めた。

41:5 彼はまた眠り、再び夢を見た。見ると、一本の茎に、よく実った七つの良い穂が出て来た。

41:6 すると、その後を追って、しなびた、東風に焼けた七つの穂が出て来た。41:7 そして、しなびた穂が、よく実った七つの穂をのみ込んでしまった。そのとき、ファラオは目が覚めた。それは夢だった。

41:8 朝になって、ファラオは心が騒ぎ、人を遣わして、エジプトのすべての呪法師とすべての知恵のある者たちを呼び寄せた。ファラオは彼らに夢のことを話したが、解き明かすことのできる者はいなかった。

41:9 そのとき、献酌官長がファラオに告げた。「私は今日、私の過ちを申し上げなければなりません。

41:10 かつて、ファラオがしもべらに対して怒って、私と料理官長を侍従長の家に拘留されました。

41:11 私と彼は、同じ夜に夢を見ました。それぞれ意味のある夢でした。

41:12 そこには、私たちと一緒に、侍従長のしもべで、ヘブル人の若者がいました。私たちが彼に話しましたところ、彼は私たちの夢を解き明かしてくれました。それぞれの夢に依じて、解き明かしてくれたのです。

41:13 そして、彼が私たちに解き明かしたとおりになり、ファラオは私を元の地位に戻され、料理官長は木につるされました。」

41:14 ファラオは人を遣わして、ヨセフを呼び寄せた。人々は急いで彼を地下牢から連れ出した。ヨセフはひげを剃り、着替えをして、ファラオの前に出た。

41:15 ファラオはヨセフに言った。「私は夢を見たが、それを解き明かす者がいない。おまえは夢を聞いて、それを解き明かすと聞いたのだが。」

41:16 ヨセフはファラオに答えた。「私ではありません。神がファラオの繁栄を知らせてくださるのです。」

ヨセフのことがエジプト王パロに知られるまでには、さらに2年を要しました。想像の域を超えませんが、この献酌官長が牢から出て復権するまでに2年かもしれませんし、またはその後ヨセフが奴隷から大臣になるためのエジプト内の事情の変化かもしれません。いずれにしても、主は最高に良いタイミングを用意しておられたに違いありません。

その中でヨセフは神様に対する信頼は少しも変わっていませんでした。神様が夢を解き明かしてくださるという、全能の神の力を信じていました。また神様と信頼の交わりをしていたので、自分に神様は教えてくださるという確信があったのでしょう。さらには王という最高権力者の前でも臆することなく、また虚勢を張ることなく、自然な自分の信仰のままで対応しています。これも神

様という宇宙の最高権力者と信頼の交わりを続けていたことからでしょう。

「なぜ神様はすぐに助けてくれないのか」「早くわざを行ってくださらないのか」「なぜあのとき守ってくださらなかったのか」と神様を恨みたくなるようなこともあります。しかし、神様は最善のことをいつもしてくださるのです。信頼し、その信頼のゆえに主との良い交わり（おもにディボーション）を続けていきましょう。それが主の力によって勝利する道です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

